



実態をふまえ、変化に柔軟に対応する

校長 市岡 直也

全国的に平年より暑く、猛暑が続いた夏休みでした。この暑さに対する方策の一つとして、夏の甲子園高校野球では「クーリングタイム」という制度が導入されました。この「クーリングタイム」ですが、選手にとってコンディションを維持するのが難しい、試合の流れが変わってしまう、クーリングタイムだけで熱中症の対策としては不十分であるなど、さまざまな意見が取りあげられていました。新しい試みには、賛否それぞれ意見が出てくるものです。今の時代に沿った対策をどのようにしていくべきなのか、考えさせられました。

屏風浦の地域では、4年ぶりにお祭りや神輿が再開された夏でもありました。7月下旬の森南納涼祭に始まり、森町内会夜店お楽しみ会、中原公園盆踊り、森浅間神社神輿（残念ながら子供神輿は中止でしたが大人神輿は実施）、ほっと・ナイト・夢まつりと、子どもたちが地域行事に参加し楽しむ姿をたくさん見ることができました。屏風浦小学校の教職員も可能な範囲で地域のお祭りやほっと・ナイト・夢まつりに顔を出させてもらいました。教職員による「わなげ」のブースも出しました。子どもたちが「先生。」と笑顔で駆け寄ってきてくれる微笑ましい様子もたくさん見られました。お祭り、神輿の様子を見させていただき、改めて子どもたちが地域の皆様に見守られて育っていることを実感しました。

学校では、夏休み期間中に、教職員と地域の方も交えた「学校づくりワーキング」を2回実施しました。これは、学校教育目標である「学び合い 笑顔かがやく 屏風の子」に向けて、本校の実態をふまえて、どのような子どもを育てていきたいのか、改めて教職員同士で話し合う機会を設けたものです。様々な視点からご意見をいただきたいと考え、学校運営協議会のメンバーにも加わっていただき、PTA役員さんには事前アンケートに協力してもらいました。話し合いを経て、屏風浦小学校で目指したい3つの子どもの姿が出されました。

人との関わりを大切にする子

判断力・行動力のある子

自己を見つめ前向きに取り組める子

地域や保護者、教職員からは「あいさつ」についての話題が共通であがりました。『人との関わりを大切にする子』に「あいさつ」も含まれてきます。「あいさつ」は教育活動の中の一例ですが、子供たちを取り巻く人達が意識を高くもつことで、声のかけ方や関わり方に変化が生まれてくるのではないかと思います。今後も教育活動全体を通して、この3つの姿の実現に向けて取り組んでいきます。

9月30日には、運動会が行われます。コロナが5類に移行したこともあり、今年の運動会は新たな取組の一步となります。

- ・子どもたち同士の関わりを大切にし、演技・競技をブロック（低・中・高）で行うことにします。
- ・できる限り内容を精選し、熱中症対策も考慮して、演技・競技等は午前中開催とします。
- ・暑さ対策として、水分補給タイムを意図的に設けます。
- ・保護者の参観人数の制限をなくし、参観は立ち見とします。

今の時代に沿いながらも、子どもたち同士が関わり、子どもたちの主体的な活動が確保できるように計画を進めています。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。